



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
電話 03-5315-0941

2021年10月20日

第728号

発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子

毎月1回20日発行/一部20円
(組合員の購読料は、組合費に含む)



JR東労組ホームページは
←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

会社の狙いを見抜き、 職場で議論を深めよう!

「柔軟な働き方」と「副業」は無関係ではなく、「副業」がJR東日本グループ内で可能とすること、将来的には組合員や社員をJR東日本グループ内のどこでも働かせることを想定しているのを見るべきです。

「柔軟な働き方」を通じて2021年度末決算では、JR東日本グループ360億円の黒字を実現することや、「変革2027」の新たな数値目標では、2025年度時点で人件費を2020年と同水準に抑制することが謳われています。今後、さらに人件費抑制の金カッターが目指されている可能性があると見てお

「これ以上「少しでも年末手当が支給されればありがたい」などの我慢や「赤字だから仕方がない」などという訳にはいきません。賃金カッターされたことにより副業に頼らなければ生計が立てられないのであれば副業は反対です。そして、今後さらなる手当や昇給カットなど、生涯に影響する賃金カッターが行なわれれば、組織の団結力を保持して立ち向かっていかなければなりません。仲間との議論を深め、何が問題なのか確定し、職場のたたかいを積み上げ、JR東労組の組織強化・拡大を実現しよう。

5本柱と5つの視点で 「新たな施策」に立ち向かおう!!



「現業機関における柔軟な働き方の実現について」施策の狙いを見抜き、「安全・健康・ゆとり」と「働きがい」を掲げ組合員と共に立ち向かう10・9集会を開催

JR東労組は、10月9日にリモートも活用して「現業機関における柔軟な働き方の実現について」施策の狙いを見抜き、「安全・健康・ゆとり」と「働きがい」を掲げ組合員と共に立ち向かう10・9集会を緊急に開催しました。

「現業機関における柔軟な働き方の実現について」に関する提案を受けて以降、職場からの声を基に、解明交渉、基本交渉を行い、本部・本社間の団体交渉を終了しました。今後、各地本において各支社との議論へ移行していくことから、これまでの交渉の報告と、今後のたたかいについて意思統一を行いました。

また、在宅休養時間の確保は、鉄道事業を担うためには重要な時間であり、寝る間も惜しんで働くなどからあつてはなりません。JR東労組は、拘束時間内における副業には反対であり、賃金カッターを副業で補填するなど、安易な選択をしてはいけないと考えます。

確かに「お金」は私たちが生活するうえで必要不可欠ですが、「お金欲しさの意欲」で労働者間で競争してはいけません。労働者間で競争し、さらなる生産性向上を目指すのであれば安全が蔑ろになるのは目に見えています。

「JR東日本報」社長あいさつで「その中で変えてはいけないものがあります。それは「安全」が経営のトッププライオリティであるということ」です。と述べられています。職場は、そのようになっていくのでしょうか。「安全はトッププライオリティ」とはいうものの、安全を度外視するような業務対応が散見していることに矛盾を感じてなりません。今までのなかった新しい仕組みや、新しい技術を取り入れることに対して、安易に反対するつもりはありません。しかし、安全が犠牲となってしまう命が脅かされてしま

「柔軟な働き方」と「副業」について

「安全」と「命」を守る

本部交渉で明らかになった課題について 「新たな施策」に対する5本柱に基づき地方交渉に向かおう!!

新たな施策に対する5本柱

1. 年功賃金の廃止反対! 手当・定昇カットなど生涯賃金の減額反対! 更なる成果主義型への変更を許さずたたかおう!
2. 主たる業務を明確にし、経験労働と各系統の訓練・教育を確実に実施させ、安全を守り抜こう!
3. 十分な休憩時間・在宅休養時間や勤務間インターバルを確保しよう!
4. 拘束時間内における副業は反対してたたかおう!
5. 本人希望を尊重させ、全組合員が働きがいを持てる職場と仕事をつくり出そう!



10月7日
深夜、千葉
県北西部を
震源とする
震度5強の
地震が発生
した。また、10日昼頃には、
埼玉県の蕨交流発電所での火
災による大規模停電が発生し
た。いずれも、不眠不休で対
応された組合員の皆様に心か
ら感謝を表したい▼一方、い
ずれも報道で目にしたのは、
10年前の東日本大震災と変わ
らない、駅にできた長蛇の列
であった▼震災当時、計画停
電の影響で駅のシャッターが
閉まり、タクシーやバスに
人々が殺到した。それを彷彿
とさせる▼しかし、普段より
何倍もの時間をかけて通勤す
る姿を見て、その中に本当に
出社しないといけない方はど
のくらいいたのだろうか。災
書時でも出社免除を判断でき
ない日本社会に、労働者の安
全と健康は二の次にされてい
ると感じた▼そうは言ってい
ても、交通インフラを守る私た
ちは異常時に真価が問われ
る。今回の地震や停電、それ
による輸送障害について、問
題点や意見を未加入の仲間も
含めて議論し、改善につなげ
たい▼JR東労組には防災士
の資格を持つ組合員もいる。
お客さまも組合員も安全と健
康が守られる、異常時に強い
JR東日本グループをつくり
出していこう。(T・S)